トラック 29-1

これは，セレマニ・ムナ・カルタラのお話で，彼はマウェニ・ヤ・ディマニの出だった。彼は男と女の間の関わりを示そうと望んでいた。忍耐，幸せな時期，善き行いの褒美である。彼はひとりの妻を持ち，何年もの間一緒に暮らしていた。

或る日，セレマニは重い病気にかかった。彼の妻は絶望して，彼は長くないと思い，家を出ることに決めた。彼は家に猫と一緒にひとりで取り残された。彼が苦悩して泣いている時には，猫も同じようにニャーと鳴いた。彼は苦しみを訴え，隣人たちを呼んで言った「苦しい上に泣けてくる」。

彼は自分の人生，妻との関わりを総括し，妻を恩知らずだと思った。彼はこう結論付けた。

「金があり，若く，健康な時には皆がお前を気にかけた。お前が病気になり，何の価値も無くなったとき，皆はお前を捨てた。まさにこういう時にこそ，お前を本当に大切に思う人たちに会えるのだ。お前を訪ねる人や，お前のために祈ってくれる人，そしてお前の世話をしてくれる人たちに」。